

快適な住環境とは ～ユニバーサルデザインから学ぶ～

京都女子高等学校

実施学年：高校1年
生徒数：134人（4学級）
実施教科：家庭科
実施時間数：8時間

①ユニバーサルデザインとは



新聞紙で住居についてのイメージを形にしている様子

②スライドショーの作成



2時間の授業でスライドショーを作成。パソコンを使い慣れていない生徒も楽しんで熱心に取り組めた様子。



④身の回りのユニバーサルデザイン発表



緊張しながらも発表を楽しみ、講評し合い、まとめた。

学習のねらい

- 1 住まいのはたらき、世界の住居について関心を持ち、住まいの中の危険について考える。
- 2 ユニバーサルデザインについての知識を深め、これからの住生活を快適なものに変えていく力を身につける。

学習活動

- 1 1枚の新聞紙を曲げたり、折ったり、切ったりし、住まいに対するイメージを形にする。
- 2 マインドマップを用い、住まいに関する知識や意識を明らかにする。
- 3 絵本や写真集を資料として、気候風土や文化、生活の違いにより様々な住まいがあることを知る。
- 4 ユニバーサルデザインの考え方について知り、身の回りのユニバーサルデザインを探す。
- 5 6つのグループに分かれ、それぞれのテーマの観点から写真を撮ってくる。
- 6 身の回りのユニバーサルデザインについて写真を撮り、発表の準備（スライドショーの作成）をする。
- 7 グループごとに発表し、講評し合い、レポートにまとめる。

準備品

- ・USBメモリ（1個/班）
- ・カードリーダー（1個/班）
- ・SDカード（貸し出し用）
- ・絵本（『あなたのいえ わたしのいえ』加古里子・福音館書店、『ヒヤリハットさんちへいってみよう』青山邦彦・ミサワホーム総合研究所、『すてきにへんな家』タイガー立石・福音館書店）
- ・写真集（『たくさんのふしぎ～世界あちこちゆかいな家めぐり～』小松義夫・福音館書店）

実施場所

教室、パソコンルーム

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>2 時間</p>	<p>ユニバーサルデザインとは</p> <p>1 1枚の紙（新聞紙）を使って、自分にとっての住居のイメージを形づくり、班で作品を紹介しあう。</p> <p>2ユニバーサルデザインの考え方について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーとの違い ・ユニバーサルデザイン7原則 <p>3ユニバーサルデザインの例として多機能トイレの写真から工夫されている点を見つける。</p> <p>4グループに分かれ、テーマごとに身の回りのユニバーサルデザインを探し、写真に撮ってくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①浴室・洗面所・トイレ ②ピクトグラム ③カラーユニバーサルデザイン ④高齢者の立場から ⑤子ども連れ、子どもの立場から ⑥体の不自由な方の立場から 	<p>製作の様子</p>  <p>作品</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品紹介から、人によって「住まい」に対するイメージが違うことがよくわかる。 ・小中学校でユニバーサルデザインについて学んでいる生徒も多かったが、高校生になって再度学ぶことによってより関心を持って取り組めた様子。 ・「オストメイト」や「色弱者」など、初めて知ることも多かったようである。 ・写真課題によって、普段の生活の場にどのようなUDがあるか、また改善の余地があるかなど、意識して目を向けるようになった様子。
<p>PC 教室</p> <p>2 時間</p>	<p>スライドショーの作成</p> <p>1撮影してきた写真をパソコンに取り込み、データで提出する。</p> <p>2グループごとにパワーポイントでスライドショーを作成する。</p> <p>3発表原稿を準備する。</p>	<p>作成の様子</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにカードリーダーを配り、写真をSDカードなどの保存媒体からパソコンに取り込み、各自スライドショーを作成し、班でまとめた。 ・スライドショーは写真のみでも可としたが、文字やアニメーションを加えたり、楽しく夢中に取り組んでいた。 ・もう少し時間が欲しいという声が多かった。

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>2 時間</p>	<p>住居のはたらき・世界の住居・住まいの中の危険について</p> <p>1 マインドマップで住居に対するイメージを膨らませる。</p> <p>2 絵本『あなたのいえ わたしのいえ』から、住まいのはたらきについて考える。</p> <p>3 写真集『たくさんのふしぎ～世界あちこちゆかいな家めぐり』から、気候風土や文化、生活の違いにより様々な住まいがあることを知る。</p> <p>4 絵本『ヒヤリハットさんちへいってみよう』の一場面から、住まいの中の危険について考える。</p>	<p>マインドマップ</p>  <p>世界の住居</p>  <p>ヒヤリハット</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マインドマップでは、色えんぴつでカラフルに仕上げる生徒も多かった。また、住まいに対するイメージだけでなく、はたらきについても書き加え、まとめた。 ・ 世界の住居について、写真集をカラーコピーし、班で1セット配置した。写真や絵でわかりやすく説明されているので、興味深く取り組めた様子。 ・ 『ヒヤリハット～』の一場面を各班に配付し、危険だと思う箇所を付箋に記入して貼った。高齢者や乳幼児など様々な立場から危険について考えることができ、自宅でも気をつけなければと実感できた様子。
<p>PC 教室</p> <p>2 時間</p>	<p>身の回りの UD 発表、まとめ</p> <p>1 グループごとに発表する。</p> <p>2 発表を講評し合う。</p> <p>3 まとめプリントでこれまでの授業をふり返る。</p>	<p>発表の様子</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ別に発表したのので、自分では気付かなかった点など様々な角度、視点から捉えることができたようである。 ・ 練習の時間が充分に取れなかったので、「緊張した」と漏らす生徒が多かったが発表形式の授業は新鮮で楽しかったようである。 ・ 最後に「心の UD」について触れ、まとめた。

生徒の作品

<スライドショー>

別途添付しました

<生徒の感想>

- ・「住まいのはたらき」では、住まいは外の環境から守ってくれたり、リラックスしたり、人間には必要不可欠なものだと、絵本を通して楽しく理解できた。
- ・「世界の住居」では、世界にはワクワクするような面白い形や仕組みの家、凝ったデザインの家、機能性の高い家があることを知り、とても興味深かった。特に中国の土楼がおもしろかった。
- ・「ヒヤリハット」では、気づかないところにたくさんの危険があることに驚いた。
- ・写真撮影の課題により、普段目の行き届かないところまで見ることでよかった。こんな素晴らしいユニバーサルデザインがあるんだと思っても、よく考えたらこういう人にはまだ不便だということをじっくり考えることができた。
- ・ユニバーサルデザインは公共の場だけでなく、はさみや定規のような文房具など様々な所に工夫されていることがわかった。ユニバーサルデザインの浸透も重要だが、地域の住民で関わりを深め、助け合うという気配りも必要だと思った。
- ・誰かに対して便利になると、また別の人に対して不便になってしまう。だから、人は助け合って生きていけない限り、「不便」はなくならないと思う。困っている人がいたら手を差し伸べられるような人間になりたいと思った。
- ・いろいろな人がもっと安心して外出できる社会になればいいなと思った。
- ・技術の発展などにより、以前より暮らしやすい環境になっているけれど、まだまだ全員が完璧に安心できるものとはなっていない。だから、一人ひとりが暮らしについて考え、行動していくことが快適な社会の実現に必要なと思う。そのために、各々が他人事だと思わずに周りに目を向けていくことが大切だと思う。
- ・ユニバーサルデザインについて知らない人も多いと思うので、多くの人に知って欲しいと思った。

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- ユニバーサルデザインを軸に、生徒が積極的に取り組めるよう授業を組み立てた。
- ユニバーサルデザインについては、理解しやすいよう具体例を挙げることで、写真を見て工夫された点を発表させることで、どのように改善すべきか考えさせることで、より身近に感じられるよう、そして写真課題に取り組むやすいよう工夫した。
- 「住まいのはたらき」や「世界の住居」、「住まいの中の危険」では、絵本や写真集を活用し、視覚的に楽しく取り組めるようにした。
- パソコンを使用して発表するという経験が今後につながればと、最後にパワーポイントで発表、講評させた。発表原稿を添削し、撮ってきた写真のすべてがユニバーサルデザインであるというのではなく、否定的な視点で捉えることの重要性も促した。
- 家庭基礎で住居分野に8時間確保するのが限界で、特にPCルームでの授業は慌しく、生徒からも時間が足りなくて残念だという声が多かった。

児童・生徒の反応

- 身近なユニバーサルデザインを写真に撮ることにより、公共の施設や自宅など生活の場に工夫点や改善点などを発見し、目を向けるようになった。今後もユニバーサルデザインについて調べたり、考えたりして知識を深めたいという生徒も多かった。
- カラーユニバーサルデザインについて、初めて知ったという生徒が多く、色弱者体験メガネで実際に見え方を体験し、社会では未だ色弱者への配慮が少ないということが実感できたようだ。
- パワーポイントの作成について、写真の他に言葉を加えたり、説明の仕方やスライドの順番を吟味したり、もっとわかりやすく工夫したかったという声が多かった。
- グループごとに異なるテーマで発表したことで、様々な視点から考えることができた。

教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- ユニバーサルデザインに興味を示した生徒が多く、取り上げる題材として良かった。
- 家庭科でパソコンを使用することが新鮮だと感じる生徒が多く、熱心に取り組んでいたため、パワーポイントで発表させて良かった。
- ユニバーサルデザインの浸透の重要性とともに、気遣いや配慮など、「心のユニバーサルデザイン」が浸透したらより快適な社会になると、生徒たちが実感できたようで嬉しかった。

その他

貴財団の助成により、色弱者体験メガネ「バリアントール」やカードリーダー、USBメモリ、ラミネートなどを購入させていただきました。バリアントールは、カラーユニバーサルデザインの理解に大変有効でした。

絵や写真をカラーコピーしたものをラミネートし、班ごとに見せることができたので、手元で見ることができ、班で意見交換しながら楽しんで取り組めたようです。

住居分野に関心のない生徒をいかに惹きつけるかが、自身の課題でしたが、生徒たちは積極的に、そして楽しそうに取り組んでおり、私自身も楽しんで授業準備を進められました。授業を組み立てる上で、経済的な理由に阻まれることも多く、教育にはお金がかかるということを感じております。満足のいく授業を実践できたのは、貴財団の助成のおかげであると大変感謝しております。ぜひ、今後ともこのような助成活動を続けていただければと思います。